

集中豪雨の記録2

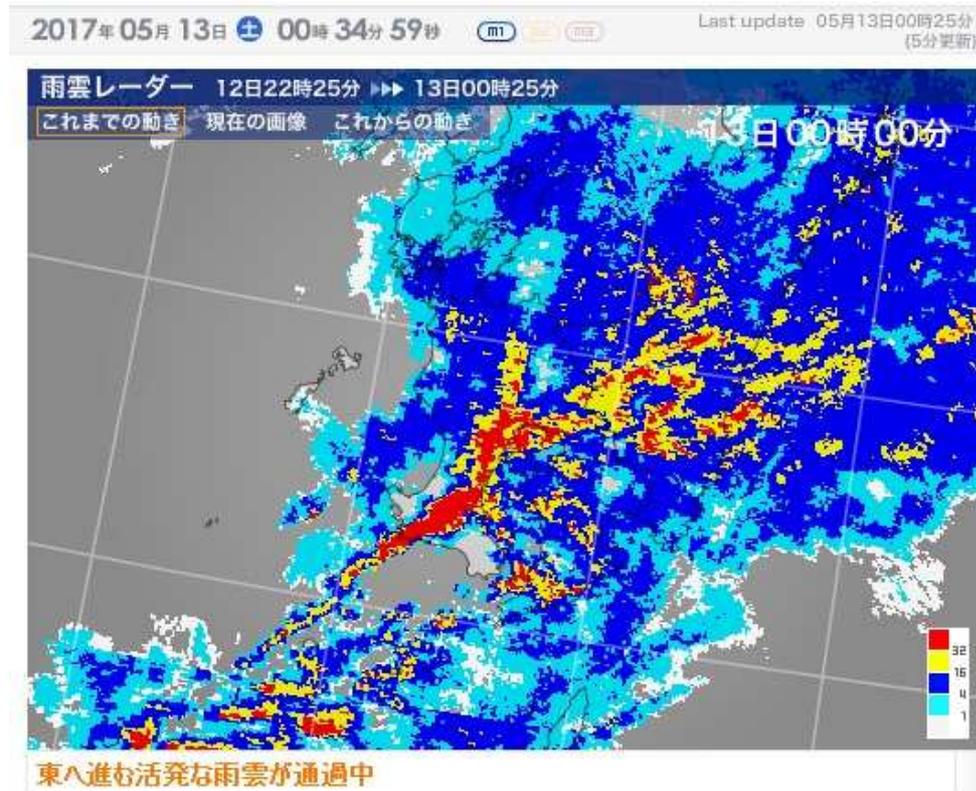
日時：2017.5.13(土)

場所：霧島市霧島大窪

雨量計設置場所：霧島市霧島総合支所

精度の悪いお国の天気予報も今日はあたってよかった。大粒の雨が深夜降り続いた。

梅雨入りにはまだまだなのに、7月初め頃の梅雨末期的な警戒しなくてはならない雨と似ている。我が田んぼへの水田水路の堰板は、昨日の正午頃、2枚外していたので、安心して寝れるだろうと考えていたが「集中豪雨」の音でやはり不安となり目が覚めた。レーダーと雨量データを見れば相当降ったようだ。



近くの太陽光発電所開発の場内流末がどうなっているか、手籠川が氾濫していないだろうか？

夜が明ければ分かる事だろうが、昨年と同じで、名ばかりの調整池にたっぷりのシラスが埋まり、それを除去するため、時間を掛けて手籠川にシラス泥を流し続け、霧島永水流域の水田水路には用水を取り込めない状況がまた来るのではないかと、相当降ったので心配です

2017.5.13 午前6時40分頃

相尾川と狩川の合流点にて相尾川の水位を確認したが暗渠の半分以上になっていた。



ここの河川の上部山間地に、霧島永水の太陽光発電所より広大な土地に中国系の会社が新たに太陽光発電所の為の林地開発をするという噂もあり、そこはこの相尾川の源流域の山の上である。今の雨量でも危うい状態なのに、保水能力のある森林の木を切って、シラスを押し、ガラス板に覆うとなると、下流の流域はどうなるか？ 答えは災害（人災）である。それでもやがて開発の申請があれば、鹿児島県知事は許可を出すのだろうか。

さらに下流域の霧島神宮駅付近では葦がほぼ倒れていた



たった3時間の集中豪雨で水位はすぐ上昇したようだ、この霧島神宮駅周辺は過去の洪水で幾度も水浸しとなった所である。もし太陽光発電所ができれば、駅前通りは濁流通りとなるだろう。